

7/1

## 差別のないまちへ 思いを込めて

同和問題啓発強調月間始まる

7月となり同和問題啓発強調月間が始まったことを伝え、理解を深めてもらおうと市内の主要駅や商業施設で街頭啓発を行いました。この活動には昨年、筑山中学校の生徒2人が参加したことがきっかけとなり、今年は全中学校から37人が参加しました。

西鉄二日市駅では二日市中学校の生徒3人が元気な声で呼びかけ、啓発チラシを配布し、「受け取ってもらえて嬉しかった」と話していました。



街頭啓発を行う二日市中学校生徒の皆さん

6/30

## ネパールの子どもたちに 教育支援を

筑紫女学園大学の学生がバザーを開催

筑紫女学園大学の学生がネパール製の雑貨などを販売するバザーを生涯学習センターで行いました。大学でソーシャルビジネス(ビジネスを通して社会問題を解決する取り組み)を学ぶ学生が販売しており、利益は平成27年に発生したネパール地震の被災地の子どもたちへの教育支援などに充てられます。

訪れた人は、「継続的な支援を」と語る学生の話に興味深く聞きながら、商品を手にとっていました。



現地での支援活動の写真を多くの人が見ていました

7/6

## 立ち直りを地域で支える

第69回「社会を明るくする運動」筑紫野市推進大会

69回目となる本大会は、犯罪や非行の防止とあやまちを犯した人の立ち直りについて理解を深め、安全安心な地域社会を築くことを目的に、保護司の皆さんにより毎年開催されています。

九州産業高校和太鼓部「紫焰楽・しえんらく」の皆さんによる力強い太鼓の演奏をオープニングに、講演では依存症からの回復支援を行っているジャパンマック福岡の施設長、岡田 昌之さんから「依存

症は治るのか？」をテーマに話がありました。依存症は身体の病気であること、さまざまな依存症の特徴や予防法、実体験を含めた話があり、具体的な話に来場者は興味深く聞いていました。

今回の大会では、筑紫野南中学校放送部の生徒が司会を担当し、他4中学校生徒会の生徒が受付などを行いました。



九州産業高校和太鼓部「紫焰楽・しえんらく」



ジャパンマック福岡の岡田さん